

2009年7月11日（土）
大阪薬業年金会館

国際奉仕・WCS委員会
委員長

戸田 和孝
(大阪東淀ちやまちRC)

会議は、大谷Gの開会挨拶に始まり、宮田PGによる国際奉仕・WCSの理念の確認と続きました。その後、委員長から、国際奉仕とWCSに関する基本的な説明があり、続いて、地区財団法人道的補助金委員会の山口委員長から、財団資金の使用について、また、ロータリー財団についての説明がありました。特に、今年度のWCSで使うことが出来るWF（ワールド・ファンド）は前年度比30%であること、2009～2010年度の地区WCS予算はDDFで65,000ドル、1プロジェクトあたり上限5,000ドルであることは、重要事項として各クラブ委員長に伝えられました。それを受けて、再び委員長が、WF削減の中で、今年度の国際奉仕・WCS活動をどう進めていくべきかという話をしました。また、話のあとで、カンボジアで奉仕活動を実践している西口さんを紹介し、WCS活動の可能性について言及しました。

休憩をはさんだ後半は、地区研修委員の宮里

唯子氏から、より使いやすく効果的な補助金制度を目指したRIの新制度について説明を受け、2013～2014年度の実施に向けて、各クラブが引き続きこの件に関する情報に注意を払うことが大切、との認識を共有しました。この後、事例発表として、今回は国際奉仕部門として『共同プロジェクト最高賞』を受賞した、守口RC・門真RC・守口イブニングRCによる『モンゴルどすこい北河内わんぱく相撲大会門真場所』の報告を受けました。相撲大会というイベントを通じて、モンゴルの子供達が日本に親近感を感じてくれる様子、国際親善の広がりがよく理解できる発表でした。この後、WCS基金会計報告、質疑応答と続き、最後に松本GEの講評を兼ねた閉会挨拶で、会議は終了しました。

休日の朝早くからの勉強会にご参加いただきました皆様に感謝と敬意を表し、報告を終わります。

